

上山棚田の稲株主制度

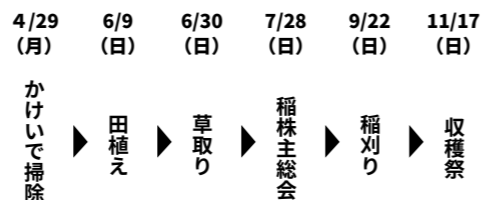
上山棚田の稲株主制度は、棚田での農業や里山の暮らしを体験していただくために始めた制度です。稲株主の皆様には、1口出資で棚田に植えられた稲株を100株保有していただきます。皆様のお顔を思い浮かべると、田植えや稲刈り、日々の水管理など、棚田での作付けを頑張る私たちのチカラとなります。棚田で育つ稲株の主として、どうぞ応援よろしくお願いします！



【稲株主制度の特典】

- ① 棚田米 5 kg**
お届けは11月～12月頃を予定しています。収穫量によってお届けできるお米の量が増減する場合があります。
- ② 稲株主総会の議決権**
7月に開催する株主総会の議決権です。今後の活動についての意見交換も行います。
- ③ 稲株主様優待特典**
対象の上山製品の購入や、集落内の提携宿で割引などの特典が受けられます。*詳細は申込みページにて
- ④ 稲株主共同作業イベントへの参加権**
お米づくり作業や株主総会、収穫祭のイベント参加権です。棚田の暮らしを身近に感じてください。

【稲株主様スケジュール】



*作業日は生育状況によって変更の可能性あり



共同作業日以外も農作業をご希望の稲株主様は、公式LINEやメールにてお気軽にご連絡ください。

英田上山 棚田団 2023年度活動報告書



上山棚田の稲株主制度のお申込み

*インターネットからのお申込みのみになります



棚田団公式instagram,facebook

*棚田団の活動や日常、イベント情報を発信しています。

instagram



facebook



特定非営利活動法人 英田上山棚田団
岡山県美作市上山 2135
代表理事 井上寿美
aidaueyama@tanadadan.org



合い言葉は、

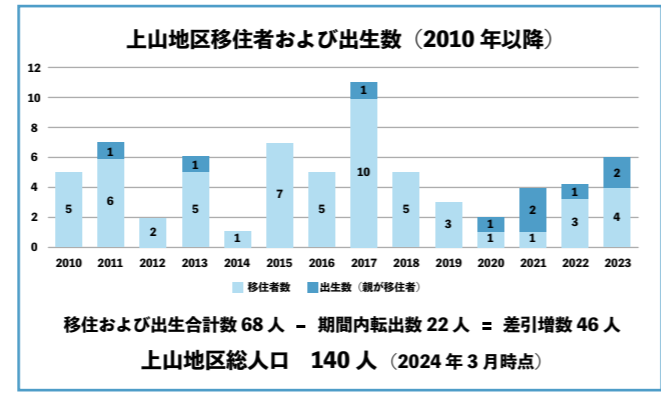
テラステラステラス

棚田での営みが、関わるひと皆んなの暮らしを照らしますように。

奈良時代頃から棚田の歴史が始まっていたとされ、江戸時代の全盛期には8300枚もの棚田があったという上山地区。そんな山里も1970年代以降、耕作放棄地が増え続けていました。棚田団の活動が始まった2007年当時は棚田全体の9割以上が耕作放棄地となり、棚田は跡形もなく藪に覆われていました。最初はひたすら草刈り、笹や竹の伐採をしては燃やす作業。そんなある時、地元の方から借り受けた3枚の田んぼでお米づくりを始めました。2011年にはNPO法人を立ち上げ、通い中心だったメンバーの中から徐々に移り住む者が現れ、棚田の再生が急速に進んでいきました。2022年には、10ヘクタール以上の土地を管理し、上山地域の活性化、資源を活かした商品開発、自然体験の受入れなどを進めています。

棚田団は、ただ単に棚田でお米を作ることだけを考えているわけではありません。棚田でスポーツしたり、棚田でアートしたり、棚田で哲学したり。常に「棚田で〇〇する団体」ということで、棚田団と名付けました。
また、2007年に平成の市町村大合併で美作市と合併することになり、英田町の地名はなくなってしまいました。英田の地名に愛着を感じていた住民からはずいぶん惜しまれたそうです。棚田団も地域の歴史や伝統文化を引き継ぐ姿勢を英田の名に込めています。

英田上山棚田団は、岡山県美作市上山地区（旧英田町上山）を拠点として耕作放棄地の再生、里山文化の継承を、地域と共に進める団体です。



上山版“集落の教科書”をつくる！？

上山地区では2010年以降に移住者が増加。それに加えて、全国各地から足を運んでくれる方々の存在も、集落の機能を維持する上で大きな存在となっています。2023年度は延べ700名以上の方々が地域の行事や農作業に外部から参加してくれました。水路掃除や道の草刈りといった集落全体で担う仕事があれば、部落長や消防団、神社の総代など、個人が役を担っているものもあります。徐々にではありますが、住民の中でも世代交代が進んでおり、地元住民や移住者、地域外から通う人が入り混じって集落運営を行っていることは上山の強みです。

今後も地域内外問わず多くの人に関わって集落を維持していくためには、新たに地域の役を担うことになる若手がスムーズに引き継ぎを行うことができ、外部から関わる人も参加しやすい状況をつくるが必要となってきます。そこで、10年以上にわたって上山での活動に伴走していただいている法政大学現代福祉学部の凶司直也教授から、集落の行事や役割を整理して誰にでも見える形にする「集落の教科書づくり」をご提案いただきました。

2023年度は各地で「集落の教科書づくり」を支援されているNPO法人テダスの田畑昇悟氏をお招きして勉強会を開催しました。集落の教科書づくりにあたって留意すべき点や、各地の事例などお話をいただきました。

2024年度は、集落内の各役割を担う住民へのヒアリングや行事の記録、起源の調査を実施予定。そこにいる人だけでなく、これから移住しようという人にとっても参考になるような「上山版集落の教科書」の完成を目指します。

5月には凶司教授とゼミ生で水路掃除に参加。集落機能を維持する活動を身をもって体験。



良いことも、そうでないこともちゃんと伝えるのがポイント！



NPO法人テダスの田畑氏と勉強会の地元参加者。



続・水辺の生きもの調査

「上山棚田の生きもの図鑑」

私たちの暮らすこの土地には、いったいどんな生きものがあるんだろう。そんな素朴な疑問からこの生きもの調査は始まりました。

棚田の再生によって生きもの多様性は変化しているのか。日々の暮らしは他の生きものに何か影響を与えているのか。「生きもの」としての視点から、どうすれば上山の暮らしをもっと楽しむことができるのか。考えているだけでは分からないことは、身体を使って調べていきます。

草刈りをしているとき、田んぼを耕しているとき、水路沿いを歩いているとき、稲刈りをしているとき。生きものを見つけたら写真を撮る。撮った写真はメンバーみんなで共有しあって、「上山棚田の生きもの図鑑」が出来上がっていきます。



「池の生きもの調査」

稲株主の方々と一緒に一晩浸けておいた仕掛けを確認に行きました。そこではなんと、昨年の調査では見つからなかった厄介者のアメリカザリガニを発見！しかしながら、田んぼや小川の調査では今年もみつからなかったため、池のみに生息していると判断できます。他にもサワガニやミドリガメなどの生息が確認出来ました。今回の池の調査で、魚類ではブラックバスの稚魚が捕獲されました。



「小川の生きもの調査」

上山の棚田と棚田の間に流れる小川の生きもの調査も行いました。稲株主様と仕掛けを設置し、いざ調査開始です。池とは結果が異なり、川では魚類やサワガニがたくさん見られました。子どもたちも大喜び！魚はカワムツ、ドンコの2種類が確認されました。





ソクソク!


棚田の調査

上山棚田のホタル編

どんなところにホタルが住んでるのでしょうか?

 ホタル生息地域

 活用している棚田

 水が流れているところ

 道

 ため池

「上山とホタルの関係」

上山の棚田が耕作放棄され藪になる以前は、いたるところにたくさんのホタルがいたそうです。棚田の減退と共にホタルも徐々に姿を消していったそうです。しかし棚田を再生し、水田が増えていくにつれ、ここ数年でホタルの分布が増えていきます。川を綺麗にしたり、田んぼに水を溜めることで、植物や微生物を含め生きものたちの生息域が増えている。そのバロメーターのひとつがホタルの数に表れているといえます。棚田の再生は農作物の生産だけでなく、様々な癒やしや自然の恩恵として還ってきています。

大芦池

アメリカザリガニが!

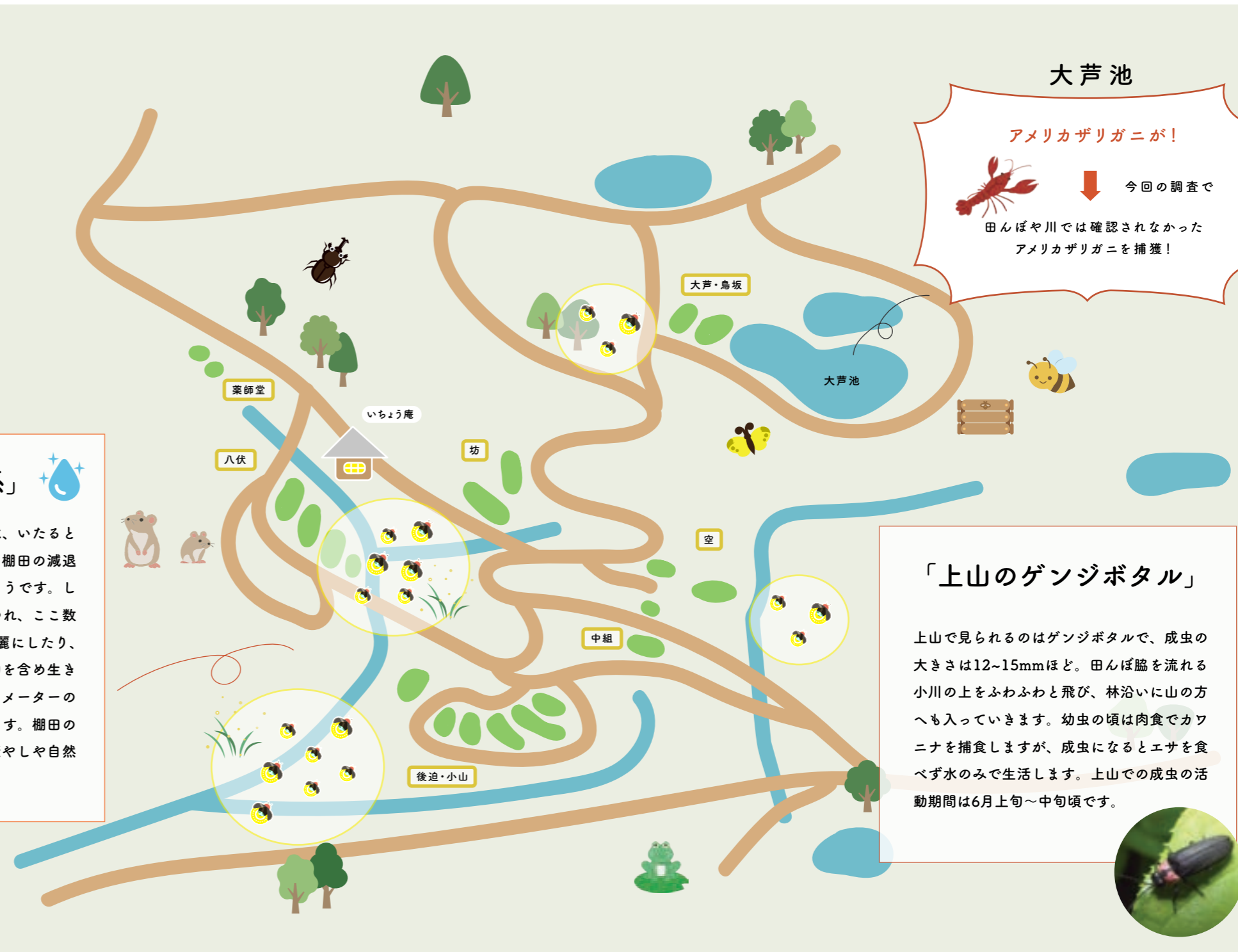
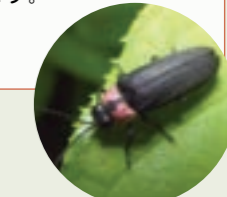


↓ 今回の調査で

田んぼや川では確認されなかった
アメリカザリガニを捕獲!

「上山のゲンジボタル」

上山で見られるのはゲンジボタルで、成虫の大きさは12~15mmほど。田んぼ脇を流れる小川の上をふわふわと飛び、林浴いに山の方へも入っていきます。幼虫の頃は肉食でカワニナを捕食しますが、成虫になるとエサを食べず水のみで生活します。上山での成虫の活動期間は6月上旬~中旬頃です。



獣害対策を検討するための調査、捕獲

プロ蜂取り師・罾猟師

「あつたや」さん



調査員

きっかけは、

この地域で継続的に里山保全活動を続けていくためには捕獲や柵による獣害対策は欠かせません。しかし現在、上山地区には罾猟者が2人しかおらず、捕獲のみの対策では解決できません。住民全体が主体となって対策をしていくことが必要不可欠です。その手始めとして生体数と分布の調査をすることにしました。

調査①

山林、水路沿い、農道、市道の踏査、走行による糞粒や足跡確認、餌場水場に則した推測

調査報告 ▶ 冬場の目撃情報が多い地点を中心に、5日間にわたり踏査による調査を実施した。冬場は日当たりが良い集落の西側に固まっていることがわかった。獣が収穫後の田んぼにも侵入し柵や支柱を倒したり、畦を壊していた。農閑期は農地に人が立ち入らない状況が続くので改善が必要とみられた。調査期間中、イノシシの足跡確認5頭/餌場推測5頭で計10頭。シカは足跡確認40頭ほど。4km²の範囲に対して40頭のシカがいる密度は、「令和4年度野生鳥獣調査事業業務委託報告書」のデータによると美作市内（作東）の調査区域8.6頭/km²、お隣の和気町1.5頭/km²と比較しても明らかに多い。県内でも密度が高い岡山県北東部の中でも顕著に生息頭数が多い結果となった。調査以降の春にはシカの出産期にもなり、さらに生息数が増加すると考えられる。参考までに岡山県全体による調査事業結果では、シカ生息推定数は55,508頭（令和3年度、中央値）である。



調査②

くくり罾やオリ罾を使用した捕獲による獣害対策や、捕獲後GPSタグを取り付けた追跡調査

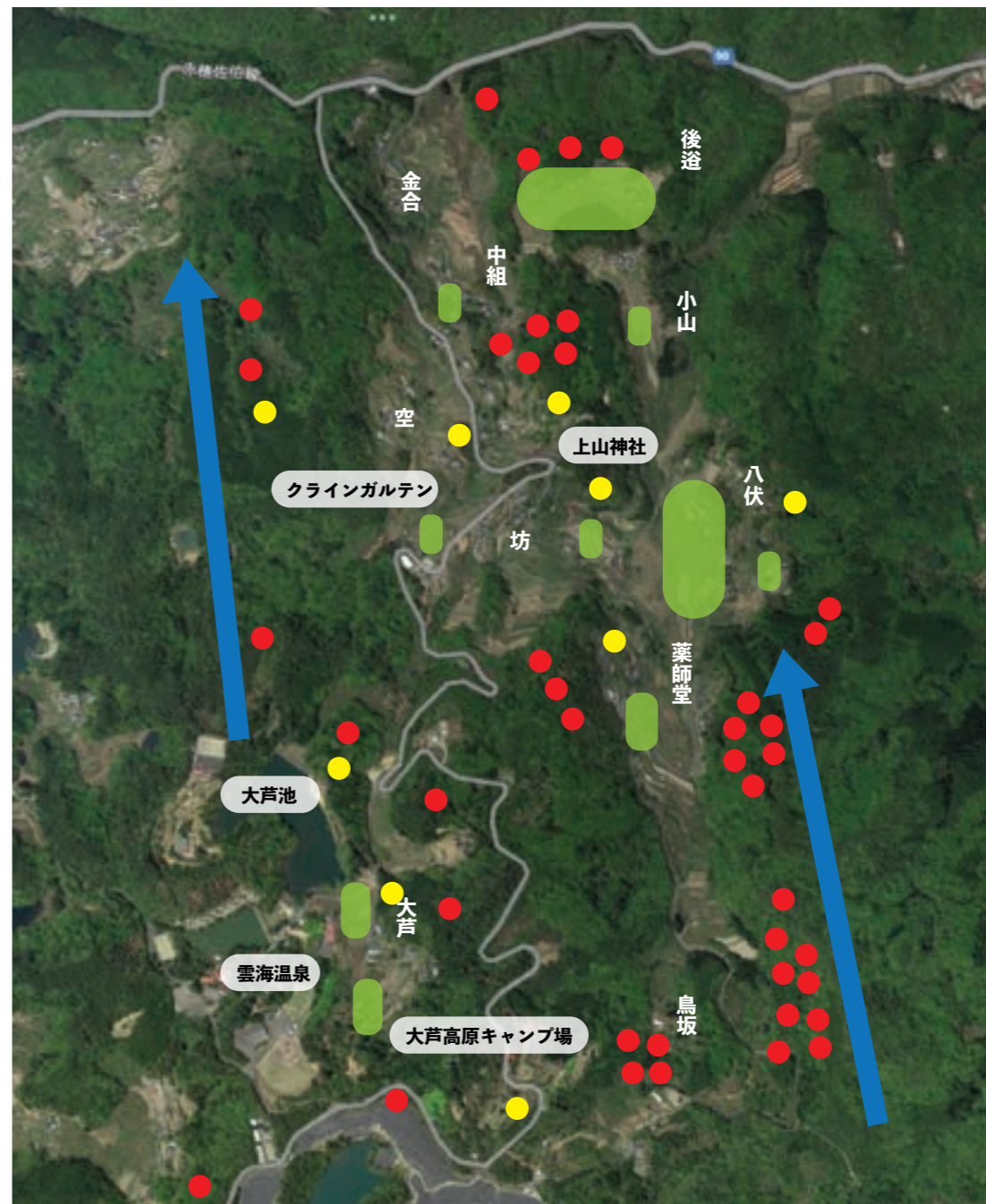
調査報告 ▶ 2月に地元猟師と連携して行ったシカ、イノシシの捕獲では上記範囲でシカ7頭、イノシシ2頭であった。捕獲方法別では、くくり罾で5頭、オリ罾で4頭の捕獲であった。そのうち1頭のシカにGPSタグを取り付け後、解放し動向をGPSで探ることとした。GPSの機能として40m以内に対象が感知できないと測定が不可能であったため、山林内をくまなく探したが感知することはできなかった。しかし解放後に動いたシカの走行ルートは踏査で見当をつけたシカのねぐらと思われる方向へ走っていたので、大まかな生息場所の見当はついた。



調査を終えて

今回は冬の農閑期での調査となりましたが、改めて農繁期の夏にも実施して、季節によるイノシシ・シカの動態を詳しく調査していきたいと考えています。年間を通した調査の結果を元に、作物への獣害を軽減するための柵の設置方法や範囲を再考したり、捕獲頭数の目標設定を明確に立てたりしていきたいです。

【シカ、イノシシの調査分布図】



- 稲作農地
- シカ 足跡確認 40頭
- イノシシ 足跡確認 5頭
餌場推測 5頭
計 10頭
- 山林内調査ルート

2024年2月調査


DATA
 岡山県美作市上山
 地図範囲 約4km²
 管理農地 20ha
 稲作農地 5ha
 水路延長 30km以上
 ▶調査方法
 踏査による糞粒確認
 足跡確認など
 山林、農道、市道

Q 拠点「いちよう庵」周辺の棚田の活用について

A

- 1位 子供の遊び場
- 2位 コンサート
- 3位 温泉
- 4位 キャンプ
- 5位 花壇

大きく分けて「学びの場」「作物の生産」「癒しの場」としての活用案が多い結果に!



アンケートを元に動きはじめています!

最もご意見の多かった子供の遊び場という案を中心に検討中です。新しいご提案も随時募集中、お待ちしております~

2023年度 稲株主総会 アンケート まとめ


拠点の使い方やカフェメニューの提案、それぞれの率直な思いなどを稲株主様にお聞きしました。その一部を抜粋してご紹介させていただきます。これらのご意見も参考に皆様と一緒に棚田を活用していければと思っています!

Q いちよう庵カフェで出して欲しいメニュー

A

おすすめ 発酵料理
 糀を使った料理 地元の食材を使った料理
 鹿肉ラーメン パスタ ピザ
 米粉パン ジビエ料理
 カレー そば 山菜料理 スイーツ

定番メニューに加え、ジビエを含めた地産の食材を使って欲しいとの声が多かったね!




Q 稲株主制度に応募された理由

A

- ・活動を応援したい
- ・お米が手に入る
- ・里山の環境保全に協力したい
- ・稲株主制度の取り組みが面白い
- ・お米づくりに参加したい

皆様、色々な思いで参加くださって嬉しい限りじゃの~。米作りに精が出るわい。




Q ご質問・ご要望・応援コメントなどあれば

A

- ・皆さんがどんな風に活動されているのかを少し知ることができることが、お米が届くことの楽しみとかわくわく感にも繋がっているように思います。
- ・上山でされている活動には何だか勇気と力を頂いております。
- ・子供たちが山村留学できる場所にもなればいいなと思っています。

棚田での活動に懐かしさを感じてくれる方もいれば、新しさを感じてくれる方もいて、幅広いご支援に感激したね~



\ 稲株主さまの声をもとに整備中 / 拠点の整備をはじめました



英田上山棚田団は耕作放棄された棚田を再生し、田んぼや畑として農作物を生産するだけでなく「棚田で〇〇する団体」を目指しています。仮に8,300枚すべての棚田を再生できたとしても、そこでお米をつくるのは現実的ではなく、多くの方に様々な活用をされてはじめて維持することができます。そこで、この棚田一枚一枚を必要とする人と、どうつながるかが重要だと私たちは考えています。様々な〇〇で上山の棚田が活用され、8,300枚全てが再生されている風景を楽しみに、皆んなの「棚田で〇〇」チャレンジを応援しています。



棚田の集落への入り口。里山での自足生活を考える場所として、様々な方にご利用頂きたいお宿です。

古民家一棟貸し

棚田サ寮

■ 詳細はHPへ

<https://www.to-aru.net>



かげひなた

日の出から日暮れまで、目の前の棚田に映し出される‘かげとひなた’に心休めて頂きたい。藁細工や木工体験のご相談も。

民泊

かげひなた

■ 詳細はTABITO紹介サイトへ

✉ kagehinata1204@gmail.com



IGOCOCHI

小さな集落に静かにたたずむ、まるで昭和の古い宝箱の中にいるような、なんともイゴコチのいいつつろぎのお宿です。

古民家一棟貸し

IGOCOCHI

■ 予約はHPから

✉ info@igocochi.link



英田上山棚田団

稲株主優待一覧表

* 詳細、最新情報は棚田団HPにてご確認ください

【NPO法人英田上山棚田団】

オンラインショップ 5%OFF
(稲株券と共にクーポンコードをお届け)

古民家いちょう庵を稲株主価格で貸切

【大芦高原温泉雲海】

集落内にある天然温泉施設。
作業後にゆったり入る温泉は格別！

入浴料200円割引

【大芦高原キャンプ場】

エリアごとに違った自然を満喫できる
キャンプ場。レンタル品も充実。

レンタル品に使える3,000円チケット

(1回限り/年)

【かげひなた(宿)】

上山で木工や藁細工など手仕事を
ナリワイとする主が運営する宿

宿泊時の朝食代無料

【と或るコテージ(宿)】

集落内の貸農園内にある棚田サウナ付きの宿

2泊目無料

【手仕事屋manomano】

上山棚田でお米作りをしながら、
木工や藁細工などを手がけるユニット

藁細工や木工商品が5%OFF
(稲株券と共にクーポンコードをお届け)

【Tsunag.】

猟師が手掛ける鹿革製品とお宿

鹿革商品が稲株主特別価格(対面販売のみ)

囲炉裏のお宿zenの宿泊が稲株主価格



集落の頂上にある天然温泉施設。温泉をひいた『湖畔のバンガロー』。ご家族や団体様にもおすすめのお宿です。

バンガロー

大芦高原温泉 雲海

■ 詳細はHPへ

TEL: 0868-74-2585



sumiCa

上山で生産されている「炭」をコンセプトにしたお宿。お部屋の各所に炭を感じられる仕掛けをお楽しみください。

民泊

炭家 -sumiCa-

■ 予約はみんなの孫プロジェクト
HPのお問い合わせから



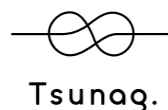
様々なお客様がアウトドアを楽しめる環境を用意しております。初心者の方から上級者の方まで、自然を愛する方なら大歓迎！

キャンプ場

oh!Ashi Forest

■ ご予約はHPへ

<https://oh-ashi-forest.com>



Tsunag.

狩猟をし鹿革製品を作る家族が営む宿。自らリノベーションした築100年の古民家をお楽しみください。

民泊

Tsunag.

■ お問い合わせはメールへ

✉ tsunag4451@gmail.com

囲炉裏のお宿



zen

大芦地区が大好きだったおじいさんが生まれ育った場所にある古民家のお宿。部屋では囲炉裏を、外では焚き火も楽しめます。

古民家一棟貸し

囲炉裏のお宿 zen

■ 予約は楽天へ

✉ umetanil031@gmail.com

* 稲株主様料金は個別にお問い合わせください。



どこでツカエルかなあ



都市農村交流による棚田保全

～棚田再生から農村再生へと展開した上山～

昨年、図司直也先生に調査レポートを頂いた“農村社会の再生プロセス”その内容を基に、「地域をつなぎ直す交流」や「多様な担い手を呼び込む」などのポイントを意識して活動を行いました。

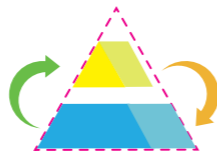


法政大学現代福祉学部教授 / 図司直也氏 (後述棚田の畑にて)

上山棚田の再生プロセス

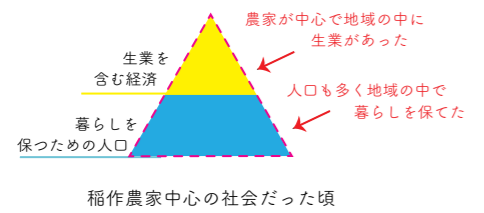
下記の様な時代の変遷で再生しています。

地域で暮らす多様な生業の再構築

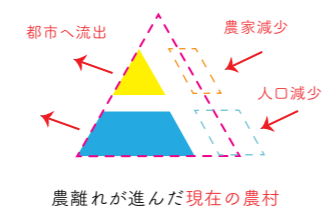


関わりが多様な支え合う好循環へ

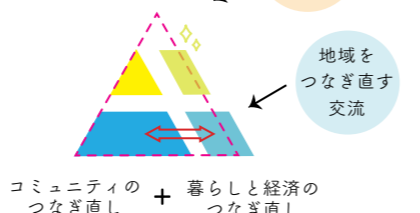
農村社会の構造変化を表した図



戦後 1960年以降



上山棚田の再生プロセス



〇〇米友達 / マイフレンズ

地域をつなぎ直す交流 京都・大阪・東京・岡山で開催。延べ157人が参加。



どこかの街で棚田米を食べながら語らう会です。棚田でのお米づくりを応援してくれたmyフレンズのため、初めて出会うmyフレンズのため、農閑期に棚田団メンバーが棚田の新米を持って街へ出かけます。お米だけは炊くので、皆さんご飯に合わせたいお勧めおかずを持ってきてくださーい！というスタイル。米炊きに行かせてもらえる場所ありましたらお声がけください。

上山棚田の稲株主

多様な担い手を呼び込み 2021年(初年度)41人66口 →2023年100人141口に増加。



上山棚田の稲株主は、棚田での農業や里山での暮らしを体験していただくための制度。株券1口で棚田に植えられた稲株を100株保有して頂きます。稲株主の皆さんの顔を思い浮かべながら苗づくりや田植え、収穫まで行えることは棚田での作付けをする私たちにとっても作業を頑張るチカラとなります。上山の棚田で育つ稲株の主として、どうぞ応援宜しくをお願いします！

棚田団に関して思うこと

里山再生、環境再生が世の中のトレンドとして取り上げられることが多くなっている。里山が成立しているのはそこに集落があるから。そこに暮らし、根を張っている人がいて成り立っている。棚田団のすごいところは、集落そのものを再生することが先にあって、それによって水路が守られ、棚田の再生にもつながってきている。本来当たり前の順序のはずだが、目に見える里山や森をどう再生するかに注目が集まってしまっている世の中では、すっ飛ばされてしまっている。そういったことから取り組む棚田団は集落の取り組みの灯台となり、希望となる存在。



greenz.jp 共同代表 植原正太郎さん

稲株主制度についての感想

株主は基本的に株券が紙っぱらになるようなリスクを負っているが、上山の棚田の稲株主制度には割引があったり、お米が届いたり、良いことしかない。逆にそれが問題点で、もう少し株主側にリスクを持たせてみるのも良いのではないかと。7500円で何もせずともお米が5kg届くならそれだけ満足してしまうかもしれない。目標配当を高めにして、みんなで草取りをしないと達成できないような、ゲーム性や株主のコミットを高めるような設計があっても良い。「高リスク高配当な株主」「低リスク低配当な株主」など2パターンいてもおもしろいのではないかと。

自分の「好き」を大切に

上山のことは全く知らなかった3年ほど前、友人から「とにかく面白いところがあるから、一緒に行こう」と連れられてふらっと訪れたのが最初で、その後上山に住むことになるとは思いませんでした(笑)。その友人が運営している旅行会社で定期的に参加していた上山ツアーに参加するうちに、上山のこと、棚田団のことが大好きになり、家族も連れて、数ヶ月に1回程度の頻度で遊びに行くようになっていました。昨年、育児休職を使って家族で4ヶ月間、上山にプチ移住しました。滞在中は、棚田団の皆さんと稲刈り、草刈り、狩猟、炭焼き、池作り、橋作り、いちよう庵1日店長、養鶏などなど、大阪ではできない経験を自分も家族も経験させていただき、一生忘れられない思い出になりました。棚田団の皆さんが、棚田の再生という共通の目的を持ちながらも、上山というフィールドを使って個々の「好き」を表現しながら生きている姿を間近で見て、僕自身も自分の「好き」を大切に生きていきたいという思いを抱き、今は海外に住んでみたいという思いを実現するため、日々英語の勉強に励んでいます。上山とは、今後も株主としての関わりはもちろんです、家族で遊びに行ったり、棚田団の活動に参加したり、定期的上山に行きたいと思っています。棚田団の皆さん、引き続き家族共々よろしくお祈りします！



半分移住者 北澤弘樹さん

拝啓、棚田団さま



きっかけは友人の移住

上山棚田を知ったのは、友人である鎌正くんがその地区に移住し活動をしていることがきっかけでした。ずっと気になる存在の鎌正くんが、上山での取り組みをやっていると聞いてから2~3年経った頃、ふと思いついて上山を初訪問。田植えに始まり、稲刈り、収穫祭と、初めはただ楽しいから通ってました。ところが、訪れる度、関わる人が増える度に上山の魅力が発見し、関わる自分や家族の楽しみを得る場、普段感じられない生きることについて考える場として、捉えるようになっていきました。上山に来ると何かに追われている日常を忘れ、生きること、生かされていることに向き合える。素直になれる。思えば仕事に追われる毎日から変化を求めて、初めは気軽に自分のリフレッシュのために訪れていたのが、藪の中だった棚田を蘇らせて新しい文化を作ることにも少しも関わらる中で、ちょっとずつ責任を感じるようになっていきました。嫌な責任感ではなく、関わる人の顔が浮かび、それぞれが自立しながらも助け合うコミュニティが見えることで、その一員として参加することの誇りを感じています。今では、上山棚田は誰かに伝えたい、知ってほしい場所になっています。



稲株主 坪井康輔さん